
Lightroom & Photoshop

富山電塾 第2回セミナー

2015/6/20 滑川市民交流プラザ研修室 講師：早川廣行塾長



第1部 Adobe Lightroom入門(2) ～読み込みから現像までの流れ～

データを破壊せずに編集できるLr=Quality Management System

Lr: ライブラリモジュール

新規カタログ作成→名前・タグ・保存場所指定→読み込み …前回のセミナー範囲

Lr: 現像モジュール

①基本補正

ホワイトバランス：スポイト&カラーチャート、またはスライダー

明瞭度：25前後がオススメ

手をつけられない場合→自動補正を掛け、微調整してみる

…ユーザープリセットやバッチ処理(スプレーなど)で最大の効率化

-
- ②ディティール補正 デジタルカメラの宿命：ローパスフィルタ＝シャープネスの低下
シャープネス：～75程度、半径原則として「1,0」
輝度ノイズ、ディティール：25～30
- ③レンズ補正
Upright (自動補正) または**手動補正**&切り抜き
ただし、「白背景に立体オブジェ」など特殊な場合の切り抜きはPsで
- ④段階フィルタ・円形フィルタの適用
- ⑤コピースタンプ・修復ブラシの適用
第一選択：**修復ブラシ** 移植先のグラデーションをなるべく保持できる
グラデーションのある場所に可能な限り大きく使う
第二選択：**コピースタンプ** 移植元のデータをそのままプリント
移植先のグラデーションを破壊するため小さめに使う
- ⑥ファイルネームの変更と表示順序の変更
画像の説明的な言葉(ポイント)やキャプションをファイルネームにすると便利
表示順序の変更(並べ替え)→インデックスプリント、スライドショー作成時
*名前の変更はライブラリモジュールで。元データ内での並び替えは不可能
*元データの名前の変更・保存場所の変更は「迷子」の元
[?]マークが出現 「ファイルが見つかりませんでした」
[?]マークをクリック>「元のファイルを検索しますか？」>はい

[ここがキモ] Lightroomが基本処理ソフトとして優秀な理由

*作業の経過と管理

ヒストリー：Lrはほぼ無限に処理記録の履歴を遡ってやり直しOK

仮想コピー：作業の途中でプレビューとして作成すると便利

「写真」>「仮想コピー作成」

スナップショットでも良い

*「保存」という作業が無く、うっかりミスをしてでも戻れる!!



第2部 Adobe Photoshop入門(2) ～救済ソフトとしてのPs～

基本処理ソフトであるLrとコラボレーションさせて使う高度な画像処理、その特徴

[1] Lrよりも多彩なツールを装備したCamera RAW

- ・カラーサンプル：9スポット採取可能 トーンカーブ調整より近道で簡易
- ・基本補正は全てLrで
- ・トーンカーブ/ディティール/HSL・グレースケール/レンズ補正/効果/
カメラキャリブレーション/プリセット/スナップショット/フィルターメニュー ほか
…必要に応じて最小限度施す

[2] 切り抜きはPsの独壇場

「イメージ」>切り抜き

[3] Psでの作業は16bitモードで行うのが原則

[4] レイヤーの使いこなしがPsのキモ

- ・多層レイヤーを作成し、レイヤー上で作業→レイヤーを統合して非破壊的な合成可能

[5] 自由自在な変形処理

- ・歪みフィルター 「フィルター」>「ゆがみ」→10種類以上の変形ツール

[6] 多彩なフィルターと装備

- ・「指先ツール」ごく微小な動き可能
- ・「パペットワープ」メッシュを視覚化し、その領域のみ自由変形

など、多彩な編集機能

高度な救済・編集やアート加工に最適



懇親会風景

机上セミナーのみでなく、撮影や画像処理実習も取り入れて欲しい…
という参加者の声もいただきました。今後のセミナーに反映したい
と思います。 (文責：森)

